

交

い

かいじあむ通信

kai

第48号

平成30年8月26日発行
山梨県立博物館

ケカ子遺跡出土 和歌刻書土器
甲州市教育委員会



われによりおも
おけきよあぢん

ひく□(三)又は(四)
らむしけい
くろろろんしけい

とのあはすや□(五)※欠損部のため推定
ヤヂチツツツツ

なはふくる
くろろろろろ

はかりそ
くろろろ

文字が語る 古代甲斐国

大河内清史、宮本正樹
(高橋英次氏、
原研博氏共著)



高橋英次氏「御坂、高橋山」

2018年
10月13日 土 ~ 12月3日 日

⑦ **物部神社**
(博物館から車で約15分)
「延喜式」という平安時代の法律書にその名が見える神社です。創建には古代の有力な豪族である物部氏が関わったと考えられます。

⑧ **山梨岡神社**
(博物館から車で約15分)
「延喜式」という平安時代の法律書にその名が見える神社です。境内にある「郡石」は、郡の境目を示した石と伝えられます。

⑨ **寺本廃寺跡・笛吹市春日居郷土館**
(博物館から車で約15分)
7世紀後半に建てられた甲斐国最古の寺院跡で、建物の礎石などが残されています。寺跡の近くにある春日居郷土館では、寺本廃寺の復元模型や発掘された瓦などが展示されています。



⑥ **美和神社**
(博物館から徒歩約20分)
平安時代前期には甲斐国でも特に位の高い神社として知られ、のちに甲斐国の二宮に定められました。

⑤ **国衛推定地**
(博物館から徒歩約15分)
奈良・平安時代に甲斐国府(今の県庁のような役所)があったと推定され、「国衛」という地名も残っていますが、明確な道跡はまだ確認されていません。

④ **姥塚古墳(南照院境内)**
(博物館から徒歩約20分)
6世紀後半に作られた古墳で、横穴式石室をもつ古墳としては東日本唯一の大きさです。後の山梨郡(東部)の成立にも影響を与えた有力者の墓と考えられます。

③ **鎌倉街道(御坂路)**
(博物館から徒歩約10分)
古代には駅路として利用され、鎌倉時代以降も甲斐の主要道路として利用され続けた道です。御坂峠を越えて河口湖方面へと続いています。

博物館の周りで 「古代甲斐国」を 探してみよう



博物館の周辺は、古代(奈良・平安時代)には甲斐国の中心的な地域でした。今も古代に関する様々な文化財が伝えられています。博物館から「古代甲斐国」探求の旅をしてみませんか？

- ① **浅間神社**
(博物館から車で約15分)
平安時代、富士山が大噴火した際に、噴火を鎮めるために作られた神社といわれ、のちに甲斐国の一宮に定められました。また周辺には条里(古代に整備された基盤式の耕地)の痕跡が見られます。
- ② **甲斐国分寺跡・国分尼寺跡**
(博物館から車で約15分)
奈良時代に聖武天皇の命令によって全国に建てられた国分寺・国分尼寺のひとつです。当時の建物に使われていた礎石などが残っています。



甲斐国分寺 礎石 (笛吹市教育委員会)
※複製して展示中

学芸員
おすすめの一品
収蔵資料の見どころを
ご紹介いたします。

速報! 西南戦争始まる!

『鹿兒島伝報記』 明治10年(1877)3月~8月

2018年の大河ドラマ「西郷どん」の主役、西郷隆盛が命を落とした明治10年(1877)の西南戦争。その情報は、稲門村(現甲府市)の高瀬茂頭(羽草、1853-1924)と甲府常盤町の内藤伝右衛門(1844-1906)が出版した『鹿兒島伝(電)報記』によって、山梨の人々にも伝えられていたのです。



常設展
「転換期に向き合う」

この期間に
会える!
10月24日~
12月17日



オイが西郷で
ごわす

『鹿兒島伝報記』に
描かれた西郷隆盛の像

明治時代の「まとめサイト」

高瀬茂頭は、各地の新聞を読み、それらをまとめて書いています。「誤りがあるかもしれないので正しい続報を待て」という、真偽の確認を読者に求める姿勢も含めて、現代のまとめサイトにそっくりですね。

値段の不思議

『鹿兒島伝報記』は全10冊。1巻と10巻は5銭、2巻~8巻は4銭ですが、9巻だけなぜか6銭で売られていました。現在の価格にすれば数百円、駅売りの新聞のような感覚でしょうか。

完結しない!?

『鹿兒島伝報記』の10巻が出版されたのはまだ西南戦争の最中ですが、「紙幅の都合により10冊で終わります。ご了承ください。」という一言で突如終わってしまいます…



『鹿兒島新誌 十号』の
桐野利秋(中村半次郎)

柳宗悦を魅了した、木喰仏の数々

シンボル展

この期間に
会える!
1月12日~
2月25日

『木喰上人作 木彫佛』 大正14年(1925)刊行

“微笑仏”とも呼ばれる、微笑みをたたえた仏像を全国に彫り残した山梨出身の僧、木喰。彼の仏像に魅了された民藝運動の創始者・柳宗悦は精力的な調査を行い、その集大成として刊行されたのが、大判写真集『木喰上人作 木彫佛』です。作られたのは「甲種」と「乙種」の2種類で、あわせて限定300部。写真103図を掲載する内容は同じですが、「甲種」は製本された豪華本、「乙種」は狭に写真を1枚ずつ収める形式でした。木喰の魅力と、柳の熱い思いが詰まった写真集です。



シリアルナンバー

限定の番号です。これは「乙種」で「巻百(100)番」。きりのよい数字ですね。



甲州産に
こだわりました

「甲種」の背表紙には「印伝」、内部には「市川大門の和紙」が使われています。制作の背景には、小宮山清三ら山梨の人々の支援がありました。



十高観音像(教安寺七観音像のうち)『木喰上人作 木彫佛』複製

失われた仏像…

この観音像のように、戦争で失われてしまっている写真は写真でしか見ることのできないものもあります。にっこり笑って大事そうに水瓶を抱える姿が可愛らしいですね。

常設展テーマ展示 県立博物館では、約2か月ごとにテーマを変えて、常設展の展示替えをしています。

「山と共に生きる一甲州の山と人々」 8.22(水)~10.22(月)

山梨県の約8割は「山」です。山のくらし、仕事、信仰、そして絵画の中の山。様々な山の魅力を感じてください。

「実りの秋! やまなしの豊かな食文化」 10.24(水)~12.17(月)

「山の幸」だけでなく「海」の幸も!? 山梨県のグルメな食生活をぜひのぞいてみてください。

「年の初めはかいじあむ」 12.19(水)~2.18(月)

新年あけましておめでとうございます。山梨のお正月はどんなものかな? 博物館でお正月を楽しもう!

文字が語る 古代甲斐国

近年の日本古代史研究は、各地の遺跡で発掘される様々な考古資料によって、これまでにない研究成果が相次いで発表されています。本展では、山梨の古代を物語る資料の中から、墨書・刻書土器や木簡、金石文や文献史料などの「文字」に着目し、新たに明らかになってきた古代甲斐国の姿や、他地域との関わりなどを紹介します。



平城宮跡出土木簡(国史、奈良文化財研究所)
展示期間: 左 10/13 ~ 10/22、右 11/20 ~ 12/3



本書で使われている五輪マーク

『木喰上人作 木彫佛』

一身延の木喰さん、世に出るその最初—

『木喰上人作 木彫佛』は、柳宗悦の木喰研究の集大成ともいえる大判写真集です。現在の身延町出身で、全国に仏像を彫り残したことで知られる江戸時代の僧・木喰は、平成30年(2018)に生誕300年を迎えました。本展では、本書に収録されている写真103点をすべてを展示し、木喰研究の始まりなどについて、本書を中心に紹介します。



薬師如来像(松木彫刻堂宗悦画)『木喰上人作 木彫佛』掲載

県都甲府の500年

山梨県のほぼ中央に位置する甲府。武田信虎がここに本拠を移したのは、永正16年(1519)のことでした。この500年間の甲斐国・山梨県の政治・経済・文化の流れについて、「甲府」をひとつの切り口として紹介します。



徳宝甲府絵図(鳥居蔵)



甲府市鳥籠図(部分、鳥居蔵)

イベントのご案内 2018.10月~2019.3月

■ 常設展スルーガイド

常設展のガイドツアーです。
毎週土曜日 11:00~11:30

■ 館長トーク

当館の守屋正彦館長による講座です。
開催日 10/21、11/24、12/16、2/17
時間 13:30~15:00

■ かいじあむ古文書講座

初めて古文書を学ぶ方のための講座です。
開催日 10/27、11/24、1/26、2/23、3/23
時間 13:30~15:00
*申込み(TEL.055-261-2631)

■ かいじあむ子ども工房

博物館ならではの体験や工作ができます。
開催日 10/13、11/10、1/12、2/9、3/9

■ 遊ぼう!学ぼう!寺子屋ひろば

展示や歴史を楽しみながら学べる体験イベントです。
毎週日曜日 11:00~11:30

■ ボランティアによる お庭の見どころガイド

四季折々の博物館の庭を散策します。
開催日 10/20、11/17、12/15、1/19、2/16、3/16
時間 13:30~14:30

■ 古文書相談日

お手持ちの古文書についての相談を承ります。
開催日 11/11、1/13、3/10
時間 10:00~13:00
*古文書の全文読解や、資料の鑑定など、お受けできない内容もあります。
*申込不要ですが、事前のご連絡があれば対応がスムーズです。
(TEL.055-261-2631)

□ その他イベント

*イベント間には内容は異なります。
- かいじあむの秋まつり 11/20(農親の日)
- かいじあむのお正月 1/2~3

2018年		10月		11月		12月	
日	月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6	1
7	8	9	10	11	12	13	2
14	15	16	17	18	19	20	3
21	22	23	24	25	26	27	4
28	29	30	31	25	26	27	5
							6
							7
							8
							9
							10
							11
							12
							13
							14
							15
							16
							17
							18
							19
							20
							21
							22
							23
							24
							25
							26
							27
							28
							29
							30
							31

文字が語る 古代甲斐国 10/13 ~ 12/3

2019年		1月		2月		3月	
日	月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	1	1
6	7	8	9	10	11	12	2
13	14	15	16	17	18	19	3
20	21	22	23	24	25	26	4
27	28	29	30	31	3	4	5
							6
							7
							8
							9
							10
							11
							12
							13
							14
							15
							16
							17
							18
							19
							20
							21
							22
							23
							24
							25
							26
							27
							28
							29
							30
							31

『木喰上人作 木彫佛』一身延の木喰さん、世に出るその最初 - 1/12 ~ 2/25

県都甲府の500年 3/16 ~ 5/13

各イベントの詳細は当館ホームページなどでご確認ください。
日程や内容は事情により変更になることがあります。



山梨県立博物館の旬な話題をお届け！

かいじあむトピックス

3年間かけて修復「法然上人絵伝」

けんぼんちやくしよくほうねんしやうにんえでん

当館所蔵の重要文化財「絹本著色法然上人絵伝」(鎌倉時代後期)が京都での修復を終え、3年振りに博物館に戻ってきました。甲斐国における浄土真宗が広まる拠点となった万福寺(甲州市勝沼町等々力)の旧蔵品で、2幅の大画面に浄土宗開祖法然の生涯が描かれています。修復前の作品は、画面全体に折れや亀裂、絵具層のはがれなどがみられ、展示が難しい状況でしたが、クリーニングや、絵具層の強化、裏面に紙を貼って補強する裏打ちなどが行われ、原形に近い姿になって帰ってきました。

日本画の掛け軸などは、およそ100年～200年の間隔で修復や仕立て直しが繰り返され、現代まで受け継がれています。昔の人が大切に伝えてくれたこの山梨の宝を、永く伝えていきたいと思います。



猛暑にも負けずスクスクと！

山梨県立博物館には、「実りの里」と呼ばれる畑があり、一年中様々な作物を育てています。各種イベントの開催時には畑でとれた野菜を使って、ほうとうやお雑煮などの試食体験を行っています。



利用案内

開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日 火曜日(祝日の場合はその翌日)*11/20(県民の日)は開館。
9/12～14、12/8・9、12/26～1/1、1/16・17は休館。

観覧料 常設展：一般510円、大学生210円

*高校生以下の方、65歳以上の方、障害者の方(およびその介護をされる方)は無料です。
*企画展には別途観覧料が必要です。県外在住の65歳以上の方は企画展観覧料が必要です。

かいじあむ通信「交い」第48号 〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田1501-1

発行日:2018年8月26日

編集・発行:山梨県立博物館

Tel:055-261-2631 Fax:055-261-2632

E-mail:kenhaku@pref.yamanashi.lg.jp

URL:http://www.museum.pref.yamanashi.jp



kaiseum_ypm



ホームページQRコード



山梨県の古い国名「甲斐国」の語源は街道と街道の結節点を意味する「交ひ(かい)」であるという説があります。山梨県立博物館が「甲斐」の博物館にふさわしく、人々や情報の交流の拠点となることを願ってこの名前をつけました。